ONKYO

CD レシーバーシステム

X-U5

CR-U5（CD レシーバー）
D-T25（スピーカーシステム）

X-UD5

CR-U5（CD レシーバー）
D-UD5（スピーカーシステム）

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書とともに大切に保管してください。

はじめに.....3
接続をする.....15
基本操作をする.....18
CDを再生する.....19
iPod/iPhone/iPadを再生する.....21
Bluetooth接続してワイヤレスで再生する.....22
FM放送を聞く.....24
USBメモリーを再生する.....26
外部機器を再生する.....26
パソコンの音楽を聞く.....27
時計を設定する
タイマー機能を使う.....27
その他
本機のリセットについて.....30

Bluetooth®

Made for iPod iPhone iPad

COMPACT disc DIGITAL AUDIO

MP3

NFC

目次

はじめに

主な特長 3
箱の中身を確かめる 4
スピーカー（D-UD5、D-T25） 5
安全上のご注意 6
CD（音楽CD、MP3）、USBメモリー（MP3）について 10
製品の取り扱いについて 11
各部の名前 12
上面、前面パネル 12
表示部 13
後面パネル 13
リモコン 14

接続をする

スピーカーを接続する 15
アンテナを接続する 16
外部機器を接続する 17
再生機器との接続 17
電源コードの接続 17

基本操作をする

基本の操作 18
電源を入れる 18
オートスタンバイ機能の設定 18
入力を切り換える 18
音量を調節する 18
音を一時的に消す 18
ヘッドホンで聞く 18
低音または高音を調節する 18
重低音を強調する 18
表示部の明るさを切り換える 18

CD を再生する

CDを再生する 19
CDを再生する 19
表示部の情報を切り換える 19
MP3ディスクのフォルダやファイルを選ぶ 19
表示部の情報を切り換える 20
1フォルダモード 20
メモリー再生 20
リピート再生 20
ランダム再生 20

iPod/iPhone/iPad を再生する

iPod/iPhone/iPadを再生する 21
iPod/iPhone/iPadをUSBで再生する 21
iPodのメニュー操作 21

Bluetooth 接続してワイヤレスで再生する

Bluetooth接続してワイヤレスで再生する 22
ペアリングする 22
Bluetooth対応機器の音楽などを再生する 22
Auto Change機能を使う 22
Bluetoothをリセットする 23
タッチして（NFCで）Bluetooth接続する 23
Bluetoothスタンバイ機能を設定する 23

FM 放送を聞く

FM放送を聞く 24
周波数を合わせて聞く 24
放送局を1 局ずつ登録する 24
放送局を自動で登録する（オートプリセット） 24
登録した放送局を聞く 25
登録した放送局を削除する 25

USB メモリーを再生する

USBメモリーを再生する 26

外部機器を再生する

外部機器を再生する 26
LINE IN端子に接続した外部機器を再生する 26

パソコンの音楽を聞く

パソコンの音楽を聞く 27
パソコンをUSBで接続する 27
パソコンの音楽を再生する 27

時計を設定する タイマー機能を使う

時計を設定する 27
タイマー機能を使う 28
スリープタイマーを使う 28
タイマーを予約する 28
タイマーのOn（実行）/Off（取消）を切り換える 29

その他

困ったときは 30
主な仕様 33
ご相談窓口・修理窓口のご案内 34
修理について 35

音のエチケット

楽しい音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

主な特長

CD

- 音楽CD、MP3ディスクの再生が可能
- CD-R、CD-RWディスクに対応
- ランダム再生、リピート再生に対応

USB

- USBメモリーでMP3ファイルの再生が可能

PC IN

- パソコンを接続してパソコンの音楽の再生が可能

iPod/iPhone/iPad*1

- iPod/iPhone/iPadデジタル接続
- 本機付属のリモコンでiPodの操作が可能
- iPod/iPhone/iPad充電機能

Bluetooth*2

- スマートフォンなどの音楽をワイヤレスで再生可能なBluetooth機能搭載
- Bluetoothスタンバイ機能対応
- かんたんにペアリング/Bluetooth接続できるNFC機能対応

ラジオ

- FMチューナー搭載
- 30局プリセット可能

タイマー

- タイマー4系統
- スリープタイマー機能

スピーカー

- 硬度が高く響きの良いMDF木製キャビネット (D-UD5)
- 2ウェイバスレフ型

その他

- 重低音を調節できるS.BASS(スーパーバス)機能
- 低音や高音を調節できるBASS(バス)、TREBLE(トレブル)機能
- 外部機器を接続できるLINE IN(ライン イン)装備
- ヘッドホンジャック搭載

*1

Made for iPod iPhone iPad

iPad、iPhone、iPod、iPod classic、iPod nano、iPod touchは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
iPad Air、iPad miniは、Apple Inc.の商標です。
iPhoneの商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。
「Made for iPod」、「Made for iPhone」、「Made for iPad」とは、それぞれiPod、iPhone、iPad専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定された電子アクセサリであることを示します。
アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。
この製品とiPod、iPhone、iPadを使用する際、ワイヤレス機能に影響する場合があります。
iPad®
iPhone®
iPod®
iPod classic®
iPod nano®
iPod touch®
iPad Air™
iPad mini™

*2 Bluetooth®

Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG、Inc. が所有する登録商標であり、オンキヨー株式会社 はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。

すべてのBluetooth機能対応製品とのワイヤレス通信を保証するものではありません。本機とBluetooth対応機器との互換性については、各Bluetooth対応機器に付属の取扱説明書を参照するか、または販売店にお問い合わせください。
一部の国では、Bluetooth対応機器の使用が制限されている場合があります。
Bluetooth対応機器の使用については、お住まいの各自治体にお問合せください。

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後のアルファベットは、製品の色を表す記号です。

箱の中身を確かめる

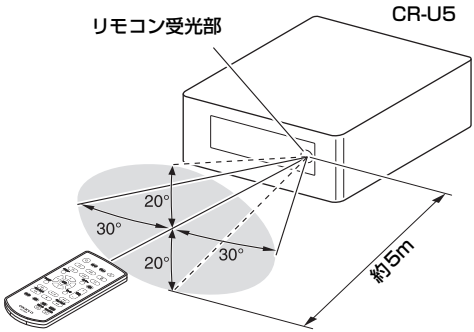
製品本体および下記の付属品が入っているかご確認ください。( ) 内の数字は数量を表しています。

製品本体（CR-U5）(1)
リモコンRC-893S （コイン形電池CR2025装着済）(1)
FM 室内アンテナ（1）
電源コード（1）
スピーカー　X-UD5：D-UD5（2） X-U5：D-T25（2）
スピーカーコード（1.1m）(2)
スピーカー用スペーサー（8）
取扱説明書（本書）(1)
保証書（1）

リモコンの使いかた

リモコンを使用する前に電池の絶縁シートを引き抜いてください。

リモコンは本体のリモコン受光部に向けて操作してください。

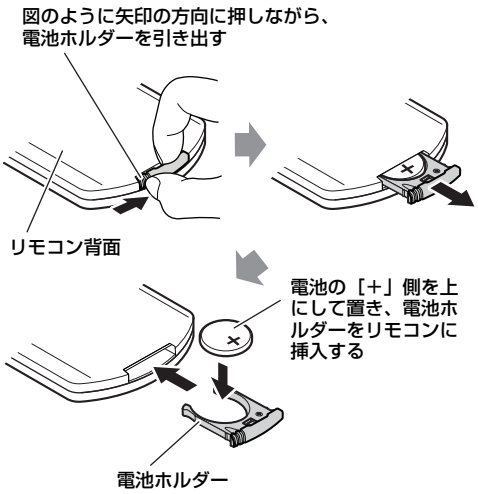


ご注意

- リモコン受光部に直射日光やインバーター蛍光灯などの強い光を直接当てると正しく動作しないことがあります。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に、本など物を置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると操作できません。

電池交換のしかた

電池は同じ型番のもの（CR2025）をご使用ください。



ご注意

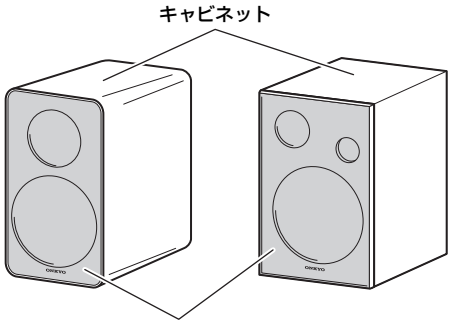
- リモコンの反応が悪くなった場合は、電池を交換してください。
- 長期間リモコンを使用しない場合は、電池をはずしておいてください。
- 液漏れや汚損を防ぐため、使い切った電池はできるだけ早く取りはずしてください。
- 購入後初めてリモコンを使用するとき、リモコンが動作しない場合は次の方法を試してください。
  1. リモコンの音量[−]ボタンをしばらく（10 秒以上）押し続ける。それでも動作しない場合は、これをくり返す。
  2. ボタン電池を一度はずし、乾いた布でボタン電池を拭いた後、再び入れる。

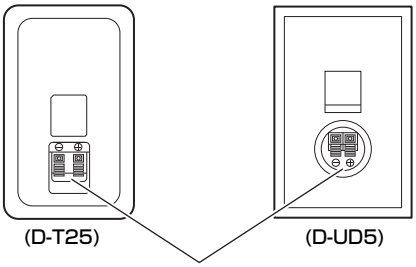
ご注意

- 電池を間違えて交換した場合、破裂の危険があります。同じ型番の電池と交換してください。
- リモコンの裏面に警告マークが付いています。リチウム電池の取り扱いについては、7ページの警告文「電池に関するご注意」をよくお読みください。

スピーカー（D-UD5、D-T25）

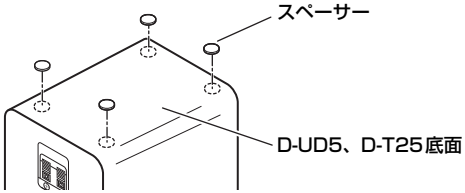
スピーカーの左右の区別はありません。どちらを左側/右側に使用してもかまいません。
（グリルネットは外せません。）





■付属のスペーサーを使う

安定した設置とより良い音でお楽しみいただくために、付属のスペーサーのご使用をおすすめします。



スペーサーは、図のようにD-UD5、D-T25底面の四隅に貼り付けてください。

ご注意

- スペーサーを貼るときは、やわらかい布の上で作業を行うなど、スピーカー表面に傷を付けないようご注意ください。

安全上のご注意
安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

電気製品は、誤った使いかたをすると大変危険です。
あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

「警告」と「注意」の見かた
間違った使いかたをしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。

⚠警告 誤った使いかたをすると、火災・感電などにより死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容です。

⚠注意 誤った使いかたをすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の見かた
△記号は「ご注意ください」という内容を表しています。

高温注意　感電注意

⃠記号は「～してはいけない」という禁止の内容を表しています。

分解禁止　ぬれ手禁止

●記号は「必ずしてください」という強制内容を表しています。

電源プラグをコンセントから抜く　必ずする

⚠ 警告

故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐに電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

・煙が出ている、変なにおいや音がする
・製品を落としてしまった
・製品内部に水や金属が入ってしまった

このような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

分解、改造しない

分解禁止

火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

接続、設置に関するご注意

■通風孔をふさがない、放熱を妨げない

禁止

CDレシーバーには内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災ややけどの原因となることがあります。

・CDレシーバーを押し入れや本箱など通気性の悪い狭い所に設置して使用しない（CDレシーバーの天面、横から20cm以上、背面から10cm以上のスペースをあける）
・逆さまや横倒しにして使用しない
・布やテーブルクロスをかけない
・じゅうたんやふとんの上に置いて使用しない

■水蒸気や水のかかる所に置かない、製品の上に液体の入った容器を置かない

水場での使用禁止

水濡れ禁止

製品に水滴や液体が入った場合、火災・感電の原因となります。
・風呂場など湿度の高い場所では使用しない
・調理台や加湿器のそばには置かない
・雨や雪などがかかるところで使用しない
・製品の上に花びん、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

電源コード・電源プラグに関するご注意

■電源コードを傷つけない

禁止

・電源コードの上に重い物をのせたり、コードが製品の下敷にならないようにする
・傷つけたり、加工したりしない
・無理にねじったり、引っ張ったりしない
・熱器具などに近づけない、加熱しない

コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■電源プラグは定期的に掃除する

必ずする

電源プラグにほこりなどがたまっていると、火災の原因となります。電源プラグを抜いて、乾いた布でほこりを取り除いてください。

⚠ 警告

使用上のご注意

■CDレシーバー内部に金属、燃えやすいものなど異物を入れない

禁止

火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- CDレシーバーの通風孔、CD挿入口から異物を入れない
- CDレシーバーの上に通風孔に入りそうな小さな金属物を置かない

■長時間音がひずんだ状態で使わない

禁止

アンプ、スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。

■CD挿入口に手を入れない

指のけがに注意

けがの原因となることがあります。特に小さなお子様のいるご家庭では注意してください。

■ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しない

禁止

ディスクは機器内で高速回転しますので、割れて破片が内部に落ちたり外に飛び出して、故障やけがの原因となることがあります。

■レーザー光源をのぞき込まない

禁止

レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。

■雷が鳴りだしたら製品、接続機器、接続コード、アンテナ、電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因となります。

■心臓ペースメーカーを装着されている場合は、本機を使用しない

禁止

電波によりペースメーカーの動作に影響を与える原因となります。

■病院などの医療機関内、医療用機器の近くや、飛行機の中では本機を使用しない

禁止

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となります。

■他の機器に電波障害などが発生した場合、本機の使用を中止する

禁止

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となります。

■長期間大きな音で使用しない

禁止

本機をご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大音量で長期間続けて使用すると、聴力が大きく損なわれる恐れがあります。

電池に関するご注意

■乾電池を充電しない、加熱・分解しない、火や水の中に入れない

禁止

電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- 指定以外の電池は使用しない
- 電池を使い切ったときや長時間リモコンを使用しないときは電池を取り出す
- コインやネックレスなどの金属物と一緒に保管しない
- 極性表示（プラス⊕とマイナス⊖の向き）に注意し、表示通りに入れる

■電池から漏れ出た液にはさわらない

接触禁止

万一、液が目や口に入ったり皮膚に付いた場合は、すぐにきれいな水で充分洗い流し、医師にご相談ください。

■ボタン電池は、小さなお子様の手の届かないところへ置く、飲み込まないよう、細心の注意を払う

必ずする

小さなお子様が誤って飲み込むと大変危険です。お子様の手の届かない所へ保管してください。万一飲み込んだ可能性がある場合、大至急医師に相談してください。飲み込んだまま放置した場合、消化管の壁に潰瘍を作ってしまうなど、重篤な症状を引き起こしたり、場合によっては死亡する可能性があります。電池収納部がしっかり閉まらない場合、製品の使用を中止し、子供の手の届かないところに保管してください。

⚠ 注意

接続、設置に関するご注意

■不安定な場所や振動する場所には設置しない

禁止

強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。
製品が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■製品の上にものを置かない

禁止

バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。また、製品に乗ったりしないでください。

■配線コードに気をつける

注意

配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

■屋外アンテナ工事は販売店に依頼する

必ずする

アンテナ工事には技術と経験が必要です。

電源コード・電源プラグに関するご注意

■表示された電源電圧(交流100ボルト)で使用する

必ずする

製品を使用できるのは日本国内のみです。
表示された電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

■電源コードを束ねた状態で使用しない

禁止

発熱し、火災の原因となることがあります。

■ 電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らない

禁止

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
プラグを持って抜いてください。

■電源を完全に遮断するには、電源プラグをコンセントから抜く

電源プラグをコンセントから抜く

電源プラグを抜き差しやすい場所に本機を設置してください。

■長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く

電源プラグをコンセントから抜く

⏻ON/STANDBYボタンで本機をスタンバイ状態にしているときでも本機は通電しています。完全に電源を切るためには電源プラグをコンセントから抜いてください。
絶縁劣化やろう電などにより、火災の原因となることがあります。

■電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込む

禁止

差し込みが不完全のまま使用すると、感電、発熱による火災の原因となります。
プラグが簡単に抜けてしまうようなコンセントは使用しないでください。

■ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

ぬれ手禁止

感電の原因となることがあります。

■お手入れの際は電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

使用上のご注意

■通風孔の温度上昇に注意

高温注意

CD レシーバーの通風孔付近は放熱のため高温になることがあります。
電源が入っているときや、電源を切った後しばらくは通風孔付近にご注意ください。

■音量を上げすぎない

禁止

- 突然大きな音が出てスピーカーやヘッドホンを破損したり、聴力障害などの原因となることがあります。
- 始めから音量を上げ過ぎると、突然大きな音が出て耳を傷めることがあります。音量は少しずつ上げてご使用ください。

■キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけない

禁止

磁気の影響でキャッシュカードやフロッピーディスクが使えなくなったり、データが消失することがあります。

⚠ 注意

移動時のご注意

■移動時は電源プラグや接続コードをはずす

電源プラグをコンセントから抜く

コードが傷つき火災や感電の原因となります。

■製品の上にものを乗せたまま移動しない

禁止

製品の上に他の機器を乗せたまま移動しないでください。
落下や転倒してけがの原因となります。
グリルネットやスピーカーユニット部を持って移動させないでください。

電池に関するご注意

■リチウム電池を破棄する場合は絶縁処理をする

必ずする

プラス、マイナス端子に絶縁テープを貼るなどして、自治体の指示に従って破棄してください。

■ 機器内部の点検について

内部清掃については、販売店にご相談ください。
お客様のご使用状況によって、定期的に機器内部の掃除をおすすめします。
本機の内部にほこりがたまったまま使用していると火災や故障の原因となることがあります。
特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。

■ 本機のお手入れについて

- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどに従ってください。
- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装が落ちたり変形することがあります。

電波に関するご注意

本機を使用する周波数帯(2.4GHz)では、電子レンジや産業・科学・医療用機器のほか、免許を要する工場の製造ラインで使用されている移動体識別用の機内無線局、免許を要しない特定小電力無線局や免許を要するアマチュア無線局などが運用されています。他の機器との干渉を防止するために、以下の点に十分ご注意いただきご使用ください。

- 本機を使用する前に、近くで他の無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、本機から他の無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合、速やかに使用を停止してください。混信回避のための処置等については、オーディオコールセンター（本書に記載）へご相談ください。
- その他、本機から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して、有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、オーディオコールセンター（本書に記載）へお問い合せください。

2.4: 2.4GHz帯を使用する無線機器です。
FH: FH-SS変調方式を表します。

すべてのBluetooth機能対応製品とのワイヤレス通信を保証するものではありません。
本機とBluetooth対応機器との互換性については、各Bluetooth対応機器に付属の取扱説明書を参照するか、または販売店にお問い合わせください。一部の国では、Bluetooth対応機器の使用が制限されている場合があります。Bluetooth対応機器の使用については、お住まいの各自治体にお問合せください。

CD（音楽CD、MP3）、USBメモリー（MP3）について

再生上のご注意

CD（コンパクトディスク）はディスクラベル面に下記のマークの入ったものをご使用ください。

※本機はCD-R、CD-RWに対応しています。
ディスクの特性、傷、汚れ、録音状態によっては再生できないことがあります。また、オーディオ用CDレコーダーで録音した場合、ファイナライズしていないディスクは再生できません。

ハート型や八角形など特殊形状のディスクは使用しないでください。機器の故障の原因となります。

複製制限機能（コピーコントロール機能）のついた音楽CDの再生について

複製制限機能（コピーコントロール機能）のついた音楽CDの中には正式なCD規格に合致していないものがあります。それらは特殊なディスクのため、本機で再生できない場合があります。

MP3ディスクの再生について

本機はCD-R/CD-RWに記録したMP3ファイルを再生することができます。

- ISO9660レベル2のファイルシステムに従って記録したディスクを使用してください。ただし、対応している階層はISO9660レベル1と同じ8階層までです。
- ディスクはクローズ（ファイナライズ）してください。
- 「.mp3」または「.MP3」の拡張子がついたMP3ファイルのみを再生することができます。
- MPEG 1オーディオレイヤー 3のサンプリング周波数32/44.1/48kHz、ビットレート32～320kbpsで記録されたファイルに対応しています。
- 1枚のディスクで認識できるフォルダ数は最大255*（ルートフォルダを含む）、ファイル数は最大512です。また1つのフォルダで認識できるファイル数は最大512です。
  * MP3ファイルが存在しないフォルダも含まれます。

USBメモリーの再生について

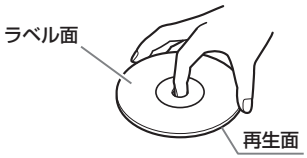
- USBマスストレージクラスでない携帯音楽プレーヤー、スマートフォンなどは再生できません。
- 本機はUSBメモリーに記録したMP3ファイルを再生することができます。
- 対応するファイルシステムは、FAT16、FAT32です。
- 「.mp3」または「.MP3」の拡張子がついたMP3ファイルのみを再生することができます。
- ファイルの再生順はUSBメモリーに転送した順です。ただし、パソコンなどでUSBメモリーのファイルやフォルダを削除したり名前を変えたりすると、再生順が変わることがあります。
- MPEG 1オーディオレイヤー 3のサンプリング周波数32/44.1/48kHz、ビットレート32～320kbpsで記録されたファイルに対応しています。
- 1つのUSBメモリーで認識できるフォルダ数は最大999*（ルートフォルダを含む）、ファイル数は最大3000です。また1つのフォルダで認識できるファイル数は最大999です。
- USBハブには対応していません。
  * MP3ファイルが存在しないフォルダも含まれます。

ご注意

- レコーダー、またはパソコンで記録したディスクを再生できないことがあります。（原因：ディスクの特性、傷、汚れ、プレーヤーのレンズの汚れ、または結露など）
- パソコンで記録したディスクはアプリケーションの設定、および環境によって再生できないことがあります。本機が対応するフォーマットで記録してください。
- データ容量が小さすぎるディスクは再生できないことがあります。

取り扱いについて

再生面（印刷されていない面）に触れないように、両端をはさむように持つか、中央の穴と端をはさんで持ってください。



再生面はもちろんラベル面に紙やシールを貼ったり、文字を書いたりしないでください。また傷などをつけないようにしてください。

レンタルCDの注意について

CDにセロハンテープやレンタルCDのラベルなどののりがはみ出したり、剥がしたあとがあるもの、また飾り用のシールを貼ったものは使用しないでください。CDが取り出せなくなったり、故障する原因となります。

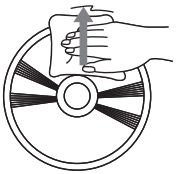
CD（音楽CD、MP3）、USBメモリー（MP3）について

インクジェットプリンター対応CD-R/CD-RWの注意について

プリンターでラベル面への印刷が可能なCD-R/CD-RWを本機に長時間入れたままにすると、ディスクが内部で貼り付き、取り出せなくなったり、故障の原因となるおそれがあります。
必要なとき以外は、ディスクを取り出してケースに保管してください。なお、印刷直後のディスクは特に貼り付きやすいので、十分乾いてから使用してください。

CDのお手入れについて

汚れにより信号が読み取りにくくなり、音質が低下する場合があります。汚れている場合は、再生面についた指紋やホコリを柔らかい布でディスクの内周から外周方向へ軽く拭いてください。
汚れがひどい場合は、柔らかい布を水で浸してよく絞ってから汚れを拭き取り、そのあと柔らかい布で水気を拭き取ってください。アナログレコード用スプレー、帯電防止剤などは使用できません。また、ベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品は表面が侵されることがありますので絶対に使用しないでください。



製品の取り扱いについて

お手入れについて

本機の表面はときどき柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは、中性洗剤をうすめた液に柔らかい布を浸し、固く絞って汚れをふき取ったあと、乾いた布で仕上げをしてください。固い布やシンナー、アルコールなど揮発性のものは、ご使用にならないでください。化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書などをお読みください。

ブラウン管テレビとの近接使用について

付属のスピーカーは（社）電子情報技術産業協会の技術基準に適合した防磁設計を施していますので、ブラウン管テレビなどとの近接使用が可能です。ただし、設置のしかたによっては色むらが生じる場合があります。その場合は一度テレビの電源を切り、15分～30分後に再び電源を入れてください。テレビの自己消磁機能によって画面への影響が改善されます。その後も色むらが残る場合は本機をテレビから離してください。また、近くに磁石など磁気を発生するものがあると、本機との相互作用によりテレビに色むらが発生する場合がありますので、設置にご注意ください。

取り扱い上のご注意

付属のスピーカーは通常の音楽再生では問題ありませんが、次のような特殊な信号が加えられると、過大電流による焼損断線事故のおそれがありますのでご注意ください。

1. FMチューナーが正しく受信していないときのノイズ
2. 発振器や電子楽器等の高い周波数成分の音
3. アンプが発信しているとき
4. オーディオチェック用CDなどの特殊な信号音
5. マイク使用時のハウリング
6. テープレコーダーを早送りしたときの音
7. ピンコードなど、接続端子の抜き差し時のショック音

結露について

本機を冷えた所から暖かい部屋に持ち込んだり、寒い部屋をストーブなどで急に暖めた場合、本機の内部に水滴がつくことがあります。これを結露といいます。そのままでは正常に働かないばかりではなく、ディスクや部品も痛めてしまいます。本機をご使用にならないときは、ディスクを取り出しておくことをおすすめします。
結露しているおそれがある場合は、電源コードを抜き、2～3時間以上室温で放置してからご使用ください。

設置場所について

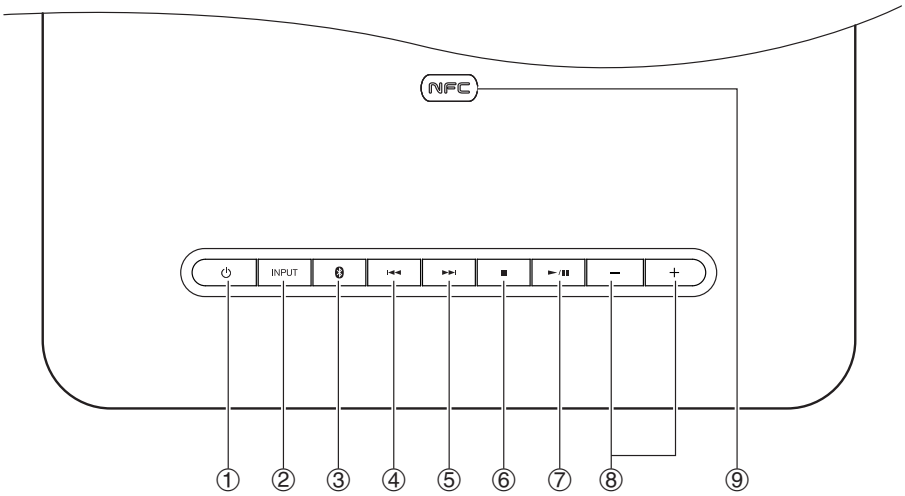
本機やリモコンは直射日光の当たる場所や蛍光灯、殺菌灯などの下で使用した場合、紫外線等の影響を受けて変色することがあります。

各部の名前

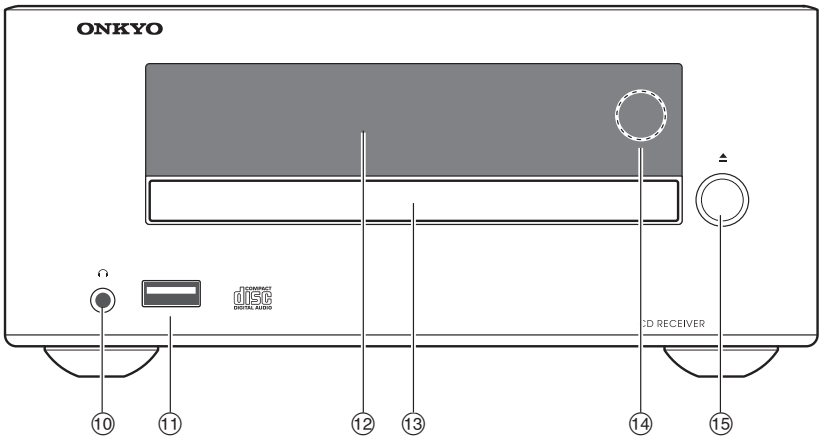
上面、前面パネル

〔 〕内のページに主な説明があります。

上面パネル

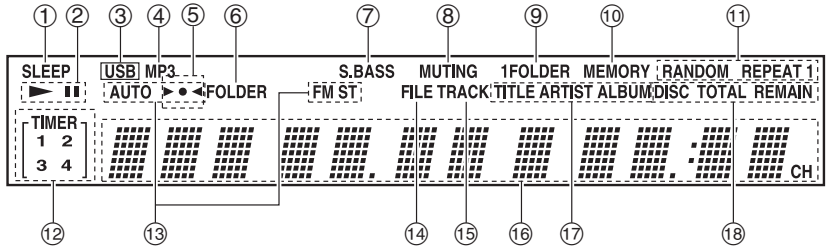


前面パネル



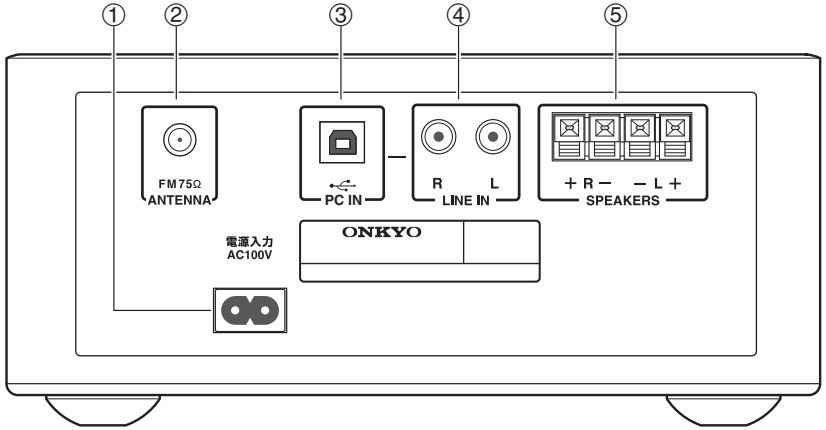
① ⏻ 電源ボタン〔18、30〕
② INPUT(インプット)ボタン〔18、19、21〕
③ (ブルートゥース) ボタン (22、23)
④ ⏮ ボタン〔19、21、25〕
⑤ ⏭ ボタン〔19、21、25〕
⑥ (ストップ) ■ ボタン〔19、24、30〕
⑦ (プレイ) ► / (ポーズ) ❚❚ ボタン〔19、20、21、26〕
⑧ 音量 +/−ボタン〔18、21〕
⑨ NFCマーク
⑩ (ヘッドホン) 🎧 端子〔18〕
⑪ USB端子〔21、26〕
⑫ 表示部〔13〕
⑬ ディスクトレイ〔19〕
⑭ リモコン受光部〔4〕
⑮ (オープン/クローズ) ⏏ ボタン〔19〕

表示部



① SLEEP（スリープ）表示
② ►（プレイ） ❚❚（ポーズ）表示
③ USB表示
④ MP3表示
⑤ ►●◄接続表示
⑥ FOLDER（フォルダ）表示
⑦ S.BASS（スーパーバス）表示
⑧ MUTING（ミューティング）表示
⑨ 1FOLDER（フォルダ）表示
⑩ MEMORY（メモリー）表示
⑪ 再生モード表示
⑫ TIMER（タイマー）表示
⑬ FM受信状態表示
⑭ FILE（ファイル）表示
⑮ TRACK（トラック）表示
⑯ 多目的表示部
⑰ TITLE（タイトル）、ARITIST（アーティスト）、ALBUM（アルバム）表示
⑱ DISC（ディスク）、TOTAL（トータル）、REMAIN（リメイン）表示

後面パネル

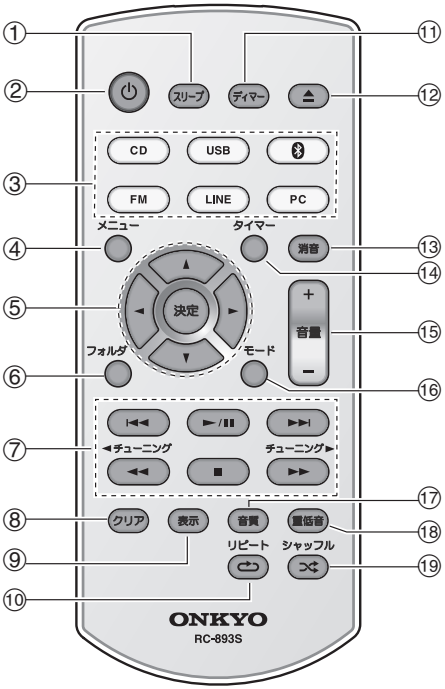


① AC INLET（インレット）
② FMアンテナ端子
③ PC IN端子
④ LINE IN（ライン イン）端子
⑤ SPEAKERS（スピーカーズ）端子

接続については、15～17ページをご覧ください。

リモコン

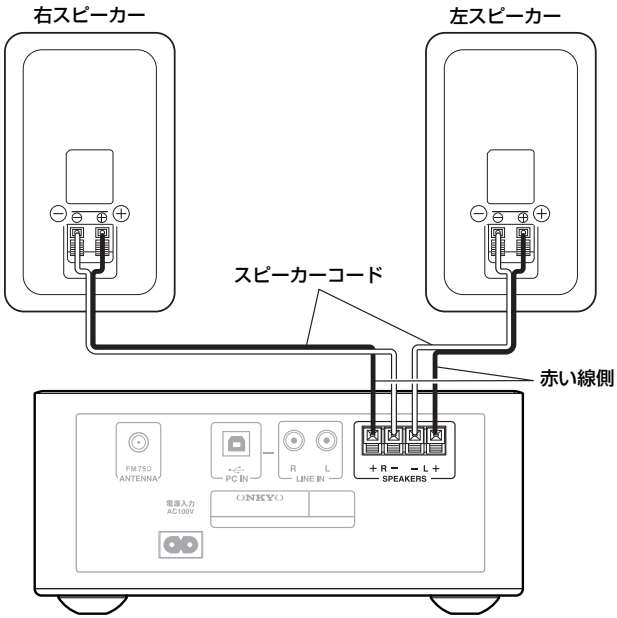
〔 〕内のページに主な説明があります。



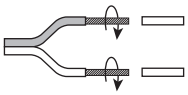
① スリープボタン〔28〕
② ⏻電源ボタン〔18、30〕
③ 入力切換ボタン〔18、21、24、25、26〕
④ メニューボタン〔21〕
⑤ ▲/▼/◄/►、決定ボタン
⑥ フォルダボタン
⑦ ■（ストップ）、►/❚❚（プレイ ポーズ）、|◄◄、►►|、◄◄、►►、チューニング ◄ ►ボタン〔19、20、21、24、25、26〕
⑧ クリアボタン〔20〕
⑨ 表示ボタン〔19、20、27〕
⑩ ↻（リピート）ボタン〔20、21〕
⑪ ディマーボタン〔18〕
⑫ ⏏（オープン/クローズ）ボタン〔19〕
⑬ 消音ボタン〔18〕
⑭ タイマーボタン〔27、28、29〕
⑮ 音量 +/−ボタン〔18、21〕
⑯ モードボタン〔20、24〕
⑰ 音質ボタン〔18〕
⑱ 重低音ボタン〔18〕
⑲ ⤮（シャッフル）ボタン〔20、21〕

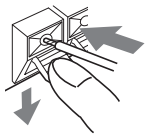
スピーカーを接続する

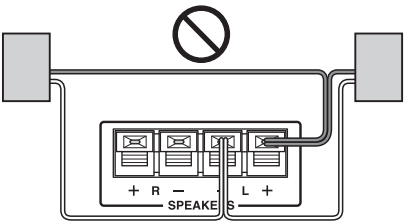
イラストはD-T25ですが、D-UD5も接続方法は同じです。

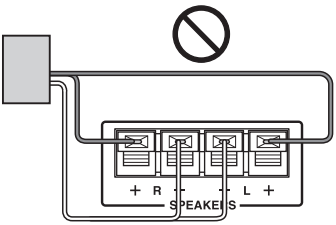


1. スピーカーコードの被覆をはずし、しん線をしっかりよじります。
2. スピーカー端子のレバーを押し下げながら、コードの先端を差し込みます。指を離すとレバーが戻ります。差し込みすぎてスピーカーコードの被覆をはさみ込まないようにしてください。
3. スピーカーコードを軽く引っ張り、確実に接続されているかどうか確認してください。









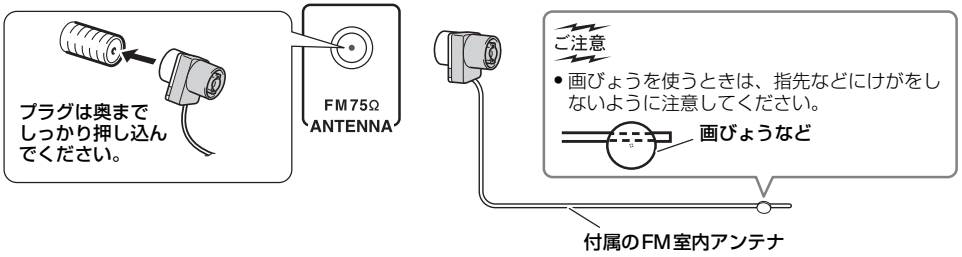
ご注意

- 右側に設置するスピーカーは、本機のスピーカー端子のRに、左側に設置するスピーカーはLに接続してください。
- スピーカーのプラス（+）と本体のプラス（+）を、スピーカーのマイナス（−）と本体のマイナス（−）を接続します。付属のスピーカーコードの赤い線の方をプラス（+）側に接続してください。
- 付属のスピーカー以外は接続しないでください。他のスピーカーを組み合わせてご使用になった場合の性能、故障については、保証できません。
- 片チャンネルのスピーカー端子に複数のスピーカーを接続したり、1つのスピーカーから両チャンネルのスピーカー端子に並列に接続しないでください。故障の原因になります。

- 故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線どうしを接触させないでください。また、しん線を後面パネルに接触させないでください。

アンテナを接続する

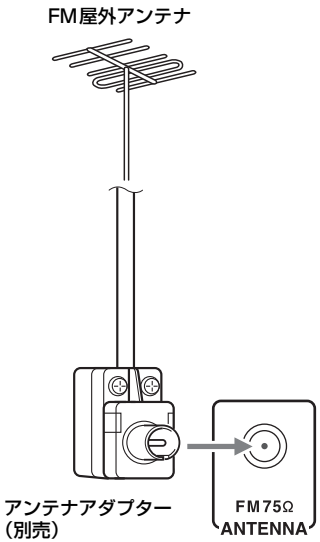
付属のFMアンテナを下図のように接続します。
FMアンテナを接続しないと本機でFM放送を受信することはできません。必ずFMアンテナを接続してください。



ご注意

- アンテナ位置の調整と固定は実際に放送を聞きながら行います。(→P.24)
- 付属のFMアンテナは、ピンと張って受信状態が良い方向に画びょうなどで固定してください。一般に、窓際の方が受信状態が良くなります。
- 付属のFMアンテナは室内用の簡易アンテナです。鉄筋の建物の中や送信所から遠い場合など、電波が弱くて安定した受信ができないことがあります。
その場合は、市販のFM屋外アンテナの接続をおすすめします。

FM屋外アンテナを接続する



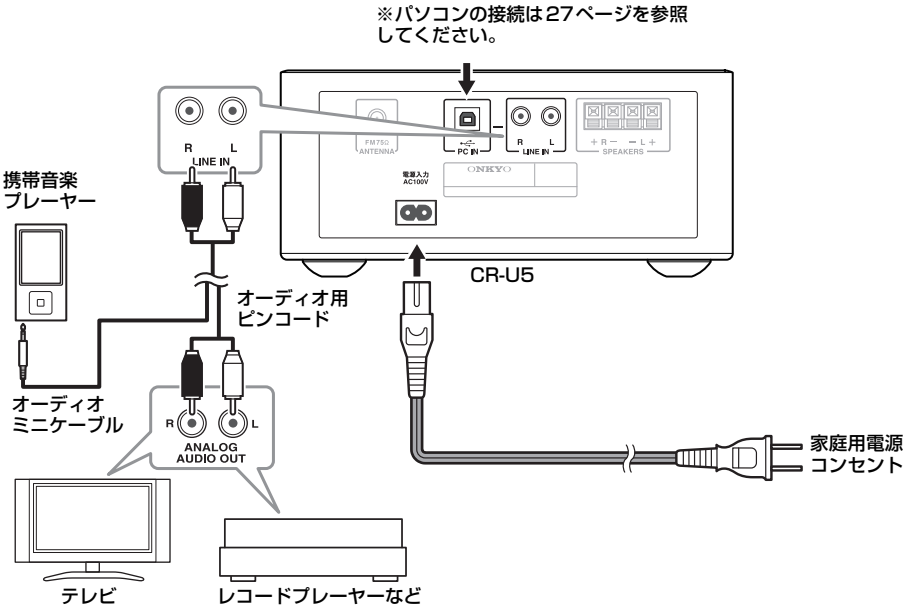
FM屋外アンテナについて

市販のアンテナアダプターを使用して、左図のように接続します。
アンテナの設置については、販売店にご相談ください。

ヒント

- ケーブルテレビをご覧の場合は、FMがテレビと同時に送られている場合がありますので、それを利用すれば安定したFM受信が可能です。受信方法や周波数については、ご契約のケーブルテレビ会社へお問い合わせください。

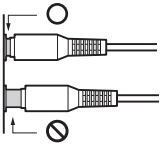
外部機器を接続する



接続の前に

- イラストは一例です。他の機器でも接続方法は同じです。接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 電源コードはすべての接続が終わるまでつながないでください。

ピンコードのプラグはしっかり奥まで差し込んでください。接続が不完全だと、雑音や動作不良の原因になります。



ご注意

- 設置の際は、本機の上部に他の機器をのせないでください。通風孔がふさがれ熱がこもり、故障の原因となります。

再生機器との接続

本機のLINE IN端子と再生機器の音声出力端子を接続します。
接続コードは、各機器に適合するコードをご用意ください。
なお、レコードプレーヤーを接続するときはフォノイコライザー（別売り）が必要です。フォノイコライザー内蔵レコードプレーヤーの場合は直接接続できます。

電源コードの接続

付属の電源コードを本体後面のAC INLET（インレット）に接続したあと、電源コードのプラグを家庭用電源コンセントに接続します。

ご注意

- 付属の電源コード以外は使用しないでください。また、付属の電源コードを他の機器に使用しないでください。故障や事故の原因となります。
- 電源コードのプラグをコンセントに差したままAC INLET側をはずさないでください。誤って電源コード内部の電極に触れると感電するおそれがあります。
- 本機の電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れて、コンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。
- 電源コードのプラグは、すぐに抜くことができるように、容易に手が届く位置のコンセントに接続してください。

基本の操作

特に指定のない限り、リモコンを使った手順を説明しています。

電源を入れる

[⏻]電源ボタンを押す

本体の[⏻]電源ボタンでも同様です。
表示部が点灯して電源が入ります。もう一度ボタンを押すと電源が切れます（スタンバイ状態）。
スタンバイ中、iPod/iPhone/iPad を本機に接続しているときは、本機の表示部に「Charging」と表示され、iPod/iPhone/iPad が充電されます。

オートスタンバイ機能の設定

本機にはオートスタンバイ機能があり、無音状態で無操作が20分継続すると、自動的にスタンバイ状態になります。
オートスタンバイ機能によりスタンバイになるときは、その1分前から「Auto Standby」表示が点滅します。

ご注意

- FM Monoのときは、オートスタンバイ機能は働きません。

1 **スタンバイ状態にする**

2 **［メニュー］ボタンを押す**
「AutoStandby>」が表示される

3 **［決定］ボタンを押し、［▲］/［▼］ボタンで「On」を選ぶ**

4 **［決定］ボタンを押す**

オートスタンバイ機能をオフにするには、上記の手順3で「Off」を選びます。

入力を切り換える

本体の[INPUT（インプット）]ボタンまたはリモコンの入力切換（CD、USB、Bluetooth、FM、LINE、PC）ボタンを押して切り換えます。
本体のINPUT ボタンは、押すごとに入力が次のように切り換わります。

CD → USB/iPod → Bluetooth → FM → LINE → PC

音量を調節する

音量［＋］/［－］ボタンで音量を調節します。
本体の［＋］/［－］ボタンでも同様です。
音量は、0～41、Maxの範囲で調節できます。

音を一時的に消す

［消音］ボタンを押す

表示部に「Muting」と数秒間表示され、MUTINGインジケーターが点滅し、音が消えます。もう一度押すと、解除されます。

ヒント

- 音量を調節しても、解除されます。
- 電源をスタンバイにして入れた場合も、解除されます。

ヘッドホンで聞く

ヘッドホンのステレオミニプラグを🎧（ヘッドホン）端子に接続します。接続するときは、音量を下げてください。
ヘッドホンを接続するとスピーカーの音は消えます。

低音または高音を調節する

1 **［音質］ボタンを繰り返し押して、「Bass」（低音）または「Treble」（高音）を選ぶ**
S.Bass1またはS.Bass2を選んでいるときは、S.BassはOffになり、前回のBass、Treble特性になります。

2 **［▲］/［▼］ボタンで調節する**
－4～＋4の範囲で調節できます。

3 **［決定］ボタンを押すと、元の表示に戻ります**

ご注意

- S.BassとBass、Trebleを同時に効かせることはできません。TONEボタンを押すと、S.BassがOffになりBass、Treble調節が有効になります。

重低音を強調する

［重低音］ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

S.Bass Off → S.Bass 1 → S.Bass 2

S.Bassが1または2のときは、S.BASSインジケーターが点灯します。
数字が大きくなるほど、重低音がより強調されます。

ご注意

- S.BassとBass、Trebleを同時に効かせることはできません。S.Bass Offのときのみ Bass、Treble調節の効果が生じ、S.Bass1またはS.Bass2のときは、Bass、Treble調節は無効になります。

表示部の明るさを切り換える

［ディマー］ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

明るい → やや暗い → 暗い

CDを再生する

特に指定のない限り、リモコンを使った手順を説明しています。

CDを再生する

1 本体の[▲(オープン/クローズ)]ボタンを押し、ディスクトレイを開ける

ヒント

スタンバイ状態のときに本体の[▲]ボタンを押すと、自動的に電源が入りディスクトレイが開きます。

2 ディスクトレイにCDのラベル面を上にしてのせる

8cmCDはディスクトレイ中央のくぼみにのせてください。

3 入力をCDに切り換え、[►/❚❚(プレイ ポーズ)]ボタンを押す

入力をCDに切り換えるには、リモコンの[CD]ボタンを押すか、本体の[INPUT]ボタンをくり返し押します。
ディスクトレイが閉まり、再生が始まります。
「►」表示が点灯します。

■再生を止めるには

[■(ストップ)]ボタンを押します。

■一時停止するには

[►/❚❚]ボタンを押します。
「❚❚」表示が点灯します。再生を再開するには[►/❚❚]ボタンを押します。

■早戻し/ 早送りをする

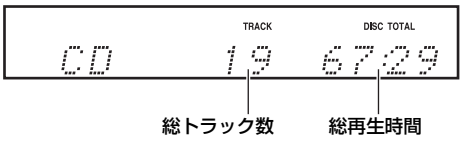
[◄◄]または[►►]ボタンを押しつづけると早戻し/ 早送りします。

■CDを取り出すには

本体の[▲]ボタンを押します。
ディスクトレイが開きます。
ディスクトレイを閉めるときは、もう一度[▲]ボタンを押します。

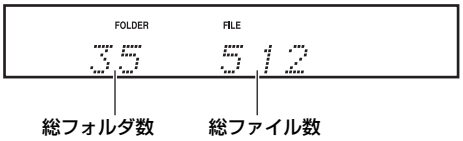
停止中の表示

音楽CDの場合



MP3ディスクの場合

ディスク読み取り後、ディスク名が表示され、その後次の表示になります。[表示]ボタンを押すと、ディスク名が表示されます。



聞きたい曲を選ぶ

[I◄◄]ボタンを1回押すと現在の曲の頭に戻り、さらに押すと1曲ずつ前に戻ります。
[►►I]ボタンを押すと1曲ずつ次へ進みます。

表示部の情報を切り換える

再生中または一時停止中に[表示]ボタンをくり返し押すと、CDの情報を切り換えることができます。

- **現在の曲の経過時間**
- **「REMAIN」表示**
  現在の曲の残り時間
- **「TOTAL REMAIN」表示**
  ディスク全体の残り時間
- **時計表示**

MP3ディスクのフォルダやファイルを選ぶ

1 停止中に[▲]/[▼]ボタンでフォルダを選択する

フォルダ番号とフォルダ名が表示されます。
[▲]ボタンを押すと前のフォルダに戻り、[▼]ボタンを押すと次のフォルダへ進みます。
そのフォルダの1曲目から再生するときは手順3に進みます。

2 [◄]/[►]ボタンでフォルダ内のMP3ファイルを選択する

選択したMP3ファイルのファイル名が表示されます。
別のフォルダを選ぶときは、[▲]/[▼]ボタンを押します（手順1に戻る）。

3 [決定]ボタンまたは[►/❚❚(プレイ ポーズ)]ボタンを押す

再生が始まります。
再生中に[▲]ボタンを押すと前のフォルダ、[▼]ボタンを押すと次のフォルダの1曲目に進みます。
また、[FOLDER]ボタンを押してから[▲]/[▼]ボタン、[決定]ボタンでフォルダを選ぶこともできます。

■一時停止するには

[►/❚❚]ボタンを押します。
「❚❚」表示が点灯します。再生を再開するには[►/❚❚]ボタンを押します。

表示部の情報を切り換える

MP3ファイル再生中にリモコンの[表示]ボタンをくり返し押すと、表示部の情報を切り換えることができます。

MP3ファイル再生中にリモコンの[表示]ボタンをくり返し押す

次の順で表示されます。

- **曲名（ID3タグがないときはファイル名）**
- **アーティスト名**
- **アルバム名（ID3タグがないときはフォルダ名）**
- **時計表示**

ご注意

- 半角英数字以外の文字は表示できません。
- 表示できない文字は、「・」で表示されます。

1フォルダモード

再生範囲を現在のフォルダに限定します。

停止中、[モード]ボタンをくり返し押して「1FOLDER」を点灯させる

1フォルダモードの停止中は、フォルダ名が表示されます。通常再生は、現在のフォルダの最後の曲の再生が終われば停止します。リピート再生、ランダム再生は、現在のフォルダ内の曲だけで行います。

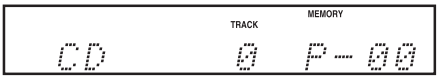
ディスク全体を再生するには、[モード]ボタンをくり返し押して、「1FOLDER」を消してください。

メモリー再生

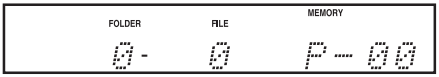
メモリー再生を使うと、25曲まで曲をメモリーし再生することができます。

1 **停止中に、[モード]ボタンをくり返し押して、「MEMORY」を点灯させる**

音楽CD



MP3ディスク



2 **[◄]/[►]ボタンを押して曲を選び、[決定]ボタンを押す**

MP3ディスクのときは、[▲]/[▼]ボタンでフォルダを選んだ後、[◄]/[►]ボタンを押して曲を選び、[決定]ボタンを押します。

この手順をくり返し、曲をメモリーしていきます（最大P-25まで）。

[クリア]ボタンを押すごとに、メモリーした最後の曲から削除することができます。

3 **[►/❚❚]ボタンを押す**

メモリー再生が始まります。

メモリー再生とリピート再生、ランダム再生を組み合わせることもできます。

■ メモリーした曲を確認するには

停止中に、[◄◄]/[►►]ボタンを押します。

■ メモリーした曲を削除するには

停止中に、[クリア]ボタンを押します。ボタンを押すごとに、メモリーの最後の曲から削除されます。

メモリー再生を解除した場合は、すべてのメモリーした曲が削除されます。

■ メモリー再生を解除するには

[モード]ボタンを押して「MEMORY」インジケータを消します。

[⏏]ボタンを押してディスクトレイを開いても、メモリー再生は解除されます。

リピート再生

[リピート ⟲]ボタンを（くり返し）押して、「REPEAT」または「REPEAT 1」を点灯させる

「REPEAT」は全曲をくり返し再生します。

「REPEAT 1」は1曲だけをくり返し再生します。

リピート再生を解除するには、[⟲]ボタンをくり返し押して、「REPEAT」、「REPEAT 1」を消してください。

ご注意

- 1フォルダモードになっていると、現在のフォルダ内の曲だけをリピート再生します。
- REPEAT 1のとき、ランダム再生を設定すると、「REPEAT 1」は解除されます。また、ランダム再生が設定されていると、「REPEAT 1」は設定できません。

ランダム再生

[⤮]ボタンを押して、「RANDOM」を点灯させる

曲順をランダムに並べかえて、全曲を一通り再生します。

ランダム再生を解除するには、[⤮]ボタンを押して「RANDOM」を消してください。

ご注意

- 1フォルダモードになっていると、現在のフォルダ内の曲だけをランダム再生します。

ヒント

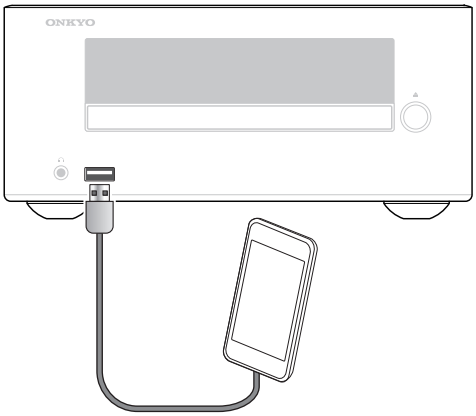
- リピート再生とランダム再生を組み合わせて使用することもできます。

iPod/iPhone/iPadを再生する

特に指定のない限り、リモコンを使った手順を説明しています。

- ご使用になる前に、iPod/iPhone/iPadを最新バージョンにアップデートしてください。
- iPod/iPhone/iPadの機種、バージョンや再生するコンテンツによっては、一部の機能が動作しないことがあります。

iPod/iPhone/iPadをUSBで再生する



本機は次のiPod/iPhone/iPadに対応しています。
iPhone 5s、iPhone 5c、iPhone 5、iPhone 4s、iPhone 4、iPhone 3GS、iPhone 3G、iPhone、iPad Air、iPad mini with Retina display、iPad第4世代、iPad第3世代、iPad 2、iPad、iPad mini、iPod touch第1、2、3、4、5世代
iPod nano第2、3、4、5、6、7世代
（2014年8月現在）

1 **[USB]ボタンを押して入力を「USB/iPod」に切り換える**
本体の[INPUT]ボタンをくり返し押して切り換えることもできます。

2 **iPod/iPhone/iPadを付属のUSBケーブルで本機前面パネルのUSB端子に接続する**
iPod/iPhone/iPadを読み込み中は、表示部に「Connecting...」が表示されます。
正常に接続できなかった場合は、「No USB」と表示されますので、一度iPod/iPhone/iPad をはずし、再び差し直してください。

3 **[►/❚❚（プレイ ポーズ）]ボタンを押す**
再生が始まります。
iPod/iPhone/iPad側で操作して再生することもできます。

■一時停止する
[►/❚❚]ボタンを押します。
もう一度押すと一時停止したところから再生が始まります。

■聞きたい曲を選ぶ
再生中、一時停止中に[I◄◄]ボタンを1回押すと現在の曲の頭に戻り、さらに押すと1曲ずつ前に戻ります。
[►►I]ボタンを押すと1曲ずつ次へ進みます。

■早戻し/ 早送りをする
[◄◄]または[►►]ボタンを押しつづけると早戻し/ 早送りします。

■ランダム再生
[⤮（シャッフル）]ボタンをくり返し押して、iPod/iPhone/iPadのシャッフル再生を切り換えます。

■リピート再生
[⮌（リピート）] ボタンをくり返し押して、iPod/iPhone/iPadのリピート再生を切り換えます。

iPodのメニュー操作
iOS7以降の場合、メニューは操作できません。

1 **リモコンの[メニュー]ボタンを押して、iPodにメニューを表示させる**

2 **リモコンの[▲]/[▼]ボタンを押し、iPodのメニュー項目（反転）を移動させ、[決定]ボタンを押す。**

ご注意
- 音量は本機のVOLUME（ボリューム）[＋]/[－]ボタンで調節します。iPod/iPhone/iPad側で調節しても音量は変わりません。
- iPod/iPhone/iPadの機種、バージョンや再生するコンテンツによっては、一部の機能が動作しないことがあります。

Bluetooth接続してワイヤレスで再生する

本機は、Bluetoothを搭載したスマートフォン/タブレット、携帯音楽プレーヤー、パソコンなどの音楽をBluetooth接続してワイヤレスで再生することができます。
Bluetooth接続して音楽を聞くには、まずペアリングを行い、Bluetooth対応機器に本機を登録する必要があります。
一度ペアリングすれば、ペアリング情報が双方の機器に記憶され、通常、再びペアリングする必要はありません。ただし、機器登録の削除などを行い、一方でもペアリング情報が削除されたときは、再度ペアリングする必要があります。

ペアリングする

NFCに対応したBluetooth搭載スマートフォン/タブレットの場合は、23ページを参照してください。

1 Bluetooth対応機器を本機の1m以内に置く
対応機器のBluetoothをオンにしてください。

2 本機の電源を入れ、[ᛒ]ボタンを3秒以上押す
「Pairing...」と表示され、►●◄が点滅し、本機がペアリングモードになります。

3 Bluetooth対応機器で機器登録（ペアリング）を行う
スマートフォンなどの画面に検索した機器が表示されたら、「Onkyo CR-U5」を選びます。
パスキー（パスワード）が要求されたら、「0000」を入力します。
Bluetooth対応機器によって機器登録の方法が違いますので、詳しくはBluetooth対応機器の取扱説明書を参照してください。

4 ペアリングが完了すると、「Pairing...」表示が消え、►●◄が点灯します
ペアリングが完了すると、Bluetoothが接続されます。もし接続されないときは、Bluetooth対応機器から接続操作を行ってください。

ご注意

- ペアリングに失敗するときは、一度Bluetooth対応機器のBluetoothをオフにし、再びオンにした後、手順1からやり直してください。
- 別のBluetooth対応機器をペアリングするときは、機器ごとに手順1～4を行ってください。本機は8台までペアリングすることができ、9台目をペアリングすると、最も古く接続した機器のペアリング情報が削除されます。

Bluetooth対応機器の音楽などを再生する

NFCに対応したBluetooth搭載スマートフォン/タブレットの場合は、23ページを参照して再生してください。

1 Bluetooth対応機器のBluetoothをオンにする

2 本機の電源を入れ、[ᛒ]ボタンを押して入力を「Bluetooth」に切り換える
自動的にBluetoothが接続される場合は、手順4へ進む。

3 Bluetooth対応機器側で、Onkyo CR-U5とのBluetooth接続を行う

4 Bluetooth対応機器を再生する
Bluetooth対応機器の音量調節が小さいと、他のソースに比べて音量が小さくなります。
Bluetooth対応機器の音量は適切（最大）に上げてください。

ご注意

- 本機の[ᛒ]ボタンを押して入力をBluetoothに切り換えると、最後に接続したBluetooth対応機器に自動的に接続します。もし自動接続されない場合は、Bluetooth対応機器から接続してください。
- 入力をBluetooth以外へ切り換えたり、電源をスタンバイ状態にすると、Bluetoothは切断されます。
- 入力がPCのときは、Bluetoothは接続できません。
- Bluetooth対応機器にバスブーストやイコライザー機能があるときは、これらの機能はオフにしてください。オンにしていると、音が歪むことがあります。

Auto Change機能を使う

BluetoothのAuto Change機能を使うと、Bluetooth対応機器から本機にBluetooth接続すると、自動的に入力がBluetoothに切り換わります（入力がPCのときは除く）。

1 本機の電源を入れ、[ᛒ]ボタンを押して入力を「Bluetooth」に切り換える

2 [MENU]ボタンを押し、[▲]/[▼]で「Auto Change＞」を選び、[決定]ボタンを押す

3 [▲]/[▼]で「On」を選び、[決定]ボタンを押す
Auto Change機能が設定されました。
Auto Change機能を無効にするには、「Off」を選んで[決定]ボタンを押してください。

ご注意

- Auto Change機能をオンにしても、入力がPCのときは働きません。
- 工場出荷時はAuto Change機能はオンに設定されています。Bluetooth対応機器の電源を入れたりするだけで、勝手に本機の入力がBluetoothに切り換わって困る場合は、Auto Change機能をオフに設定してください。
- NFCをタッチした場合は、Auto Change機能がオフであっても、入力が自動的にBluetoothに切り換わります。

Bluetoothをリセットする

うまくペアリングできない、接続できないなど、Bluetoothの動作がおかしくなったときは、本機のBluetoothをリセットしてみてください。
なお、Bluetoothをリセットすると、すべてのペアリング情報が消え、改めてペアリングをやり直す必要がありますので、ご注意ください。

1 本機の電源を入れ、[ ]ボタンを押して入力を「Bluetooth」に切り換える

2 MENU]ボタンを押し、[▲]/[▼]ボタンで「Reset BT?」を選び、[決定]ボタンを押す

3 もう一度[決定]ボタンを押す
Bluetoothがリセットされ、「Complete」が表示されます。

ご注意

- Bluetoothをリセット後は、Bluetooth対応機器側の機器登録（ペアリング）も削除し、改めて本機とペアリングを行ってください。

タッチして（NFCで）Bluetooth接続する

本機は、NFC（近距離無線通信）機能に対応しています。NFCに対応したBluetooth搭載スマートフォン/タブレットを本機にタッチするだけで、Bluetoothのペアリングから接続まで一度に行うことができます。

1 NFC対応スマートフォン/タブレットのNFC機能を有効にする
詳しくはNFC対応スマートフォン/タブレットの取扱説明書を参照してください。
必要な場合は、NFC接続アプリを起動させてください。また、ロック画面を解除してください。

2 本機上面のNFCマークにスマートフォン/タブレットのNFC検出エリアをタッチする
スマートフォン/タブレットが音や表示で反応を示すまで、スマートフォン/タブレットを動かさないでください。

3 スマートフォン/タブレットの画面の指示にしたがって接続を行う
ペアリングが完了し、Bluetoothが接続されると、本機の►●◄が点灯します。

4 スマートフォン/タブレットを再生する
スマートフォン/タブレットの音量調節が小さいと、他のソースに比べて音量が小さくなります。スマートフォン/タブレットの音量は適切（最大）に上げてください。

ヒント

- NFC対応スマートフォン/タブレットを本機にタッチすると、本機の電源が入り、入力がBluetoothになり、Bluetooth接続されます。もう一度タッチすると、Bluetoothが切断されます。
- Bluetooth接続中、他のNFC対応スマートフォン/タブレットをタッチすると、接続していたBluetooth対応機器は切断され、タッチしたNFC対応スマートフォン/タブレットがBluetooth接続されます。

ご注意

- タッチしても反応しない場合は、タッチした状態で少し横にずらしてみてください。
- 機器によっては、タッチ（NFC）でペアリングや接続できないことがあります。その場合は手動で操作してください。（→P.22）
- NFC/Bluetooth対応スマートフォンまたはタブレットを本機のNFCマークの上に放置しないでください。NFC機能が本機の操作に干渉することがあります。

Bluetoothスタンバイ機能を設定する

Bluetoothスタンバイ機能を使うと、Bluetooth対応機器から接続したときに、自動的に本機の電源が入りBluetooth入力になります。

1 本機の電源を入れ、[ ]ボタンを押して入力をBluetoothに切り換える

2 [メニュー]ボタンを押し、[▲]/[▼]ボタンで「BT Standby >」を選んで[決定]ボタンを押す

3 [▲]/[▼]ボタンで「On」を選び、[決定]ボタンを押す
Bluetoothスタンバイ機能がオンに設定されました。
Bluetoothスタンバイ機能を解除するには、「Off」で「決定」ボタンを押します。

4 本機をスタンバイ状態にする
Bluetoothスタンバイ（Bluetooth接続待機状態）になります。

ご注意

- Bluetoothスタンバイ時は、通常のスタンバイ時より消費電力が増えます。
- Bluetooth対応機器によっては、電源を入れるだけでBluetooth接続するものがあり、本機のBluetoothスタンバイ機能がオンに設定されていると、本機も自動的に電源が入ります。
- NFCをタッチした場合は、Bluetooth Standby機能がオフであっても、自動的に本機の電源が入りBluetooth入力に切り換わります。

FM放送を聞く

特に指定のない限り、リモコンを使った手順を説明しています。

周波数を合わせて聞く

1 **[FM]ボタンで入力をFMに切り換える**

2 **[◄ チューニング]/[チューニング ►]ボタンを押して、表示部を見ながら周波数を合わせる**
1回押すごとに周波数が0.1MHzずつ変わります。押し続けると周波数が連続して変化します。周波数が連続して変化後に指を離すと、放送局を受信すると自動的に停止します。

放送局を受信するとチューンド表示（►●◄）が点灯します。

FMステレオ局を受信すると、FM（エフエム） ST（ステレオ） 表示が点灯します。

放送局を1局ずつ登録する

受信した局を最大30局まで1局ずつ登録します。
登録（プリセット）すると、周波数で合わせなくても選局できます。

1 **登録したい放送局を受信する**
「周波数を合わせて聞く」を参考に、登録したい放送局を受信します。

2 **[メニュー]ボタンを押し、[▲]/[▼]ボタンで「PresetWrite>」を選んで[決定]ボタンを押す**

3 **[▲]/[▼]ボタンで登録するチャンネル番号を選び、[決定]ボタンを押す**

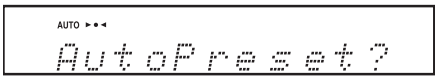
放送局を自動で登録する（オートプリセット）

ご注意

- オートプリセットを行うと、現在登録されている放送局はすべて消えますので、ご注意ください。

1 **[FM]ボタンで入力をFMに切り換える**
FMの受信状態が良好になるようにFMアンテナの位置を調整してください。（→P.16）

2 **[メニュー]ボタンを押し、[▲]/[▼]ボタンで「AutoPreset?」を選んで[決定]ボタンを押す**



3 **もう一度[決定]ボタンを押す**
オートプリセットが始まります。
周波数の低い方から自動的に最大30 局まで登録していきます。

オートプリセットを途中で止めるには、[■（ストップ）]ボタンを押します。

ご注意

- 受信環境によっては、放送局でないノイズなどが登録されることがあります。不要なチャンネルは削除してください。（→P.25）

■放送を受信しにくいときは

電波の弱い所や雑音の多い所では、[モード]ボタンを押し、「AUTO」表示を消してモノラル受信（Monoモード）にしてください。雑音を軽減できます。
Autoモードに戻すときは、[モード]ボタンを再度押します。
通常は、Autoモードにしてステレオ受信にしてください。

登録した放送局を聞く

あらかじめ放送局を登録しておいてください。
(→P.24)

1 **[FM]ボタンで入力をFMに切り換える**
最後に受信していた放送局が受信されます。

2 **[I◄◄]/[►►I]ボタンを押して、登録した放送局を選ぶ**

ヒント

- スタンバイ状態でリモコンの[FM]ボタンを押すと、本機の電源が入り、最後に受信していた放送局が受信されます。

登録した放送局を削除する

1 **[I◄◄]/[►►I]ボタンを押して、削除するチャンネルを呼び出す**

2 **[メニュー]ボタンを押し、[▲]/[▼]ボタンで「PresetErase>」を選んで[決定]ボタンを押す**

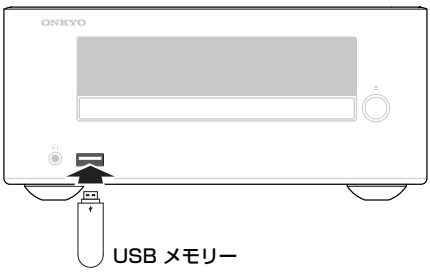
3 **削除するチャンネル番号を再確認し、[決定]ボタンを押す**
削除をやめるときは[メニュー]ボタンを押します。

USBメモリーを再生する

特に指定のない限り、リモコンを使った手順を説明しています。

1 [USB]ボタンを押して入力を「USB/iPod」に切り換える
「No USB」と表示されます。

2 USBメモリーを本体前面のUSB端子に接続する



USB メモリー

3 [►/❚❚(プレイ ポーズ)]ボタンを押す
再生が始まります。
フォルダ/ファイルの選択、1フォルダモード、リピート再生、ランダム再生はMP3ディスクと同じです。(→P.19)

レジューム機能について：
USBメモリーの場合には、レジューム機能があります。再生中に一度[■]ボタンを押すと“Resume”と表示され、その位置が記憶され、[►/❚❚]ボタンを押すとその位置から再生が再開されます。完全な停止状態にするには、[■]ボタンをもう一度押してください。

ご注意
- USBメモリーをUSB端子に接続したり、はずしたりするときは、動かないように本体を手で押えてください。
- USBハブを使ってUSBメモリーを接続しないでください。
- 使用できるUSBメモリーのフォーマットなどについては10ページ「USBメモリーの再生について」をご覧ください。
- 本機前面のUSB端子とパソコンは接続できません。パソコンは後面のUSB端子に接続してください。(→P.27)

外部機器を再生する

LINE IN端子に接続した外部機器を再生する

1 [LINE]ボタンを押して入力を「LINE」に切り換える

2 外部機器を再生する
他のソースに比べて音量差が大きいときは、LINE入力のレベルを調節してください。

■LINE入力のレベルを調節する

携帯音楽プレーヤーのイヤホン出力などは他のソースよりもレベルが小さいため、LINE入力に接続して他の入力に切り換えると音量差があります。そのときは、次の方法でLINE入力のレベルを調節してください。

1. [LINE]ボタンを押して入力を「LINE」に切り換える
2. [メニュー]ボタンを押して「Input Level >」を表示させ、[決定]ボタンを押す
3. 音楽を再生し、**[▲]/[▼]**ボタンを押してレベルを調節する
   −6〜+12の範囲で調節できます。
   [決定]ボタンを押して元に戻る。

ご注意
- この調節はスピーカーの音量のみに有効です。ヘッドホンの音量は調節できません。
- 携帯音楽プレーヤーの音量が小さいときは、この調節だけでは足りないことがあります。その場合は、携帯音楽プレーヤーの音量も上げてください。
- Input Levelを上げすぎると音が歪むことがあります。その場合はInput Levelを適切に調節してください。

パソコンの音楽を聞く

パソコンをUSBで接続する

パソコンを本機後面のUSB Type B端子に接続し、パソコンの音楽を高音質で再生できます。
USBケーブル（TypeA — TypeB）（別売）を用意してください。

- **本機は、Windows 8/7/Vistaのパソコンに対応しています。**

1 **パソコンを起動する**
USBケーブルは、パソコンの起動が完了するまで接続しないでください。

2 **本機の電源を入れ、[PC]ボタンを押し、入力を「PC」に切り換える**

3 **USBケーブルを本機後面のPC IN端子（USB Type B）に接続し、その後パソコンに接続する**
自動的にドライバがパソコンにインストールされ、本機が「スピーカー（Onkyo PC USB Audio）」として認識されます。

ご注意

- 3m以下のUSBケーブルをご使用ください。
- 前面のUSB 端子（Type A）にはパソコンは接続できません。パソコンは後面のUSB端子（Type B）に接続してください。

パソコンの音楽を再生する

1 **パソコンを起動する**

2 **[PC]ボタンを押し、入力を「PC」に切り換える**

3 **パソコンで音楽再生ソフトなどを起動し再生する**

ご注意

- 本機から、音楽再生ソフトなどの再生/一時停止、スキップなどの操作はできません。
- 音量は本機で調節してください。
- 音が出ない、または小さいときは、音楽や動画再生ソフトの音量が消音状態または小さくなっていることがあります。音量を適切に調節してください。
- それでも音が出ないときは、音楽や動画再生ソフトを終了させ、再度起動させて再生してみてください。また、パソコンのサウンドデバイス（再生デバイス）で、「スピーカー（Onkyo PC USB Audio）」が選ばれているか確認してください。

時計を設定する

特に指定のない限り、リモコンを使った手順を説明しています。

1 **[タイマー]ボタンをくり返し押し、「Clock」を表示させる**
時計が設定されていないときは、「Clock」しか表示されません。

2 **[決定]ボタンを押す**

3 **[▲]/[▼]ボタンで曜日を合わせ、[決定]ボタンを押す**

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
日	月	火	水	木	金	土

4 **[▲]/[▼]ボタンで時を合わせ、[決定]ボタンを押す**
[決定]ボタンを押す前に[表示]ボタンを押すと、24時間表示/12時間表示を切り換えることができます。

5 **[▲]/[▼]ボタンで分を合わせ、[決定]ボタンを押す**
[決定]ボタンを押すと、00秒から時計がスタートします。

■時計を表示させる

スタンバイ中は、「表示」ボタンを押すと約8秒間表示されます。電源が入っているときは、「表示」ボタンによる表示切換の最後に表示されます。

ご注意

- 停電すると、時計が止まり「-- : --」表示になります。また、タイマーがすべてオフになります。時計を合わせ直し、必要なタイマーをオンに設定してください。

タイマー機能を使う

特に指定のない限り、リモコンを使った手順を説明しています。

本機には、指定時間経過後に電源がスタンバイ状態になるスリープタイマーと、設定した時間に選択したソースを設定した音量で再生する4つ系統のタイマーを搭載しています。

スリープタイマーを使う

指定時間経過後に電源がスタンバイ状態になります。

1 **電源が入った状態で[スリープ]ボタンを押す**
「Sleep 90」と約8秒間表示され、90分後に電源がスタンバイ状態になります。スリープタイマー動作中はSLEEP表示が点灯します。

2 **Sleep時間表示中に[スリープ]ボタンをくり返し押し、希望の時間を設定する**
[スリープ]ボタンを押すごとに、10分単位でスリープ時間を短くできます。

■残り時間を確認するには

[スリープ]ボタンを押すと、電源が切れるまでの残り時間が表示されます。残り時間表示中に[スリープ]ボタンを押すと、10分単位でスリープ時間を短くできます。

■スリープタイマーを解除するには

[Sleep Off]表示が出るまで、[スリープ]ボタンをくり返し押します。なお、すぐに電源を切りたい場合は、[⏻]ボタンを押してください。

タイマーを予約する

タイマーを予約するには、時計の設定が必要です。(→P.27) また、FMをタイマー予約するには、放送局を登録する必要があります。(→P.24)

1 **[タイマー]ボタンをくり返し押してタイマー番号（1～4）を選ぶ**
「Clock」しか表示されないときは、時計が設定されていません。まず、時計を設定してください。(→P.27)

2 **[▲]/[▼]ボタンで「On」を選び、[決定]ボタンを押す**

3 **[▲]/[▼]ボタンで再生機器を選び、[決定]ボタンを押す**
再生機器は、CD、USB/iPod、FM、LINEから選べます。FM以外を選んだときは、手順5へ進みます。

4 **[▲]/[▼]ボタンで希望のプリセットチャンネルを選び、[決定]ボタンを押す**

5 **[▲]/[▼]ボタンで毎日/曜日指定/1回からタイマー動作を選び、[決定]ボタンを押す**
Everyday: 毎日動作します。→手順8へ
Every: 指定した曜日に毎週動作します。→手順6へ
Once: 1回だけ動作します。→手順7へ

6 **[◄]/[►]ボタンで曜日を選び、[▲]/[▼]ボタンでそれぞれのオン/オフを設定し、[決定]ボタンを押す**

タイマー番号

カーソル位置の曜日表示

.... : オフ

(例) 月、水、金、日に動作させる場合

M_ W_ F_ S

手順8へ進みます。

7 **[▲]/[▼]ボタンで曜日を選び、[決定]ボタンを押す**

8 **[▲]/[▼]ボタンで開始（On）時刻の時を合わせ、[決定]ボタンを押す**

9 **[▲]/[▼]ボタンで開始（On）時刻の分を合わせ、[決定]ボタンを押す**
開始（On）時刻が変更されたときは、終了（Off）時刻は自動的に1時間後に設定されます。

10 **開始（On）時刻と同様に、[▲]/[▼]、[決定]ボタンで終了（Off）時刻の時、分を設定する**

11 **[▲]/[▼]ボタンでタイマー再生時の音量を設定し、[決定]ボタンを押す**
0は設定できません。代わりにLast（最後に聞いた音量）を設定できます。

12 **スタンバイにする**
電源がオン状態ではタイマーは動作しません。On時刻の2分前には、電源を必ずスタンバイ状態にしてください。

ご注意

- タイマーが重なっていると、後続のタイマーが動作しません。各タイマーのOn～Off時間が重ならないよう、注意して設定してください。
- タイマーでオンしている間にスリープタイマーを動作させると、スリープタイマーの動作に移行し、タイマーのオフ時刻には切れません。
- 再生機器にCD、USB/iPodを設定したときは、ディスクやUSBメモリー、iPodを再生できる状態にし、本機をスタンバイ状態にしてください。
- 再生機器にLINEを選んだときは、タイマーオン時に入力がLINEになり、設定された音量になるだけです。LINEに接続された外部機器の再生は、外部機器側のタイマーで行うように設定してください。

タイマーのOn（実行）/Off（取消）を切り換える

予約したタイマーの実行を取り消したり、再び実行させることができます。また、タイマーをOnに設定すると、予約したタイマーの設定内容を確認、変更することもできます。

1 **[タイマー]ボタンをくり返し押してタイマー番号を選ぶ**
「On」が点滅しているタイマーが実行状態です。

2 **[▲]/[▼]ボタンで「On」または「Off」を選び、[決定]ボタンを押す**
「Off」を選ぶとタイマーは取り消され（設定内容は保持されています）、元の表示に戻ります。
「On」を選ぶとタイマー設定に入ります。設定内容を確認、変更してください。（→P.28）

時計を表示させると、表示部左端に、現在実行状態のタイマー番号が表示されます。

困ったときは

下記の内容をチェックしてみてください。本機以外の原因も考えられます。接続した機器の取扱説明書もご確認ください。

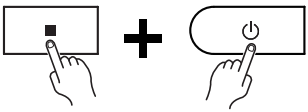
修理を依頼される前に

本機の動作が異常になったときは、本機をリセットすることによって問題が解消されることがあります。

修理を依頼される前に、下記の「本機のリセットについて」を行い、本機をリセットしてみてください。

本機のリセットについて

本機の電源を切った状態で本体の[■]ボタンを押しながら[⏻]ボタンを押します。「Reset」と表示されたら、指を離します。しばらくするとスタンバイ状態になります。



リセットされ、FMのプリセットチャンネルなどの各設定が出荷時の状態に戻ります（Bluetoothのペアリング情報を除く）。

電源に関して

電源が入らない

- 電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。
- 電源コードが本体背面のAC INLETにしっかり接続されているか確認してください。
- 一度電源プラグをコンセントから抜き、5分以上待ってから再度コンセントに差し込んでください。

電源が途中で切れる

- 表示部に「SLEEP」表示が点灯している場合は、スリープタイマーが働いています。解除してください。**(→P.28)**
- オートスタンバイが設定されている場合、本機は自動的にスタンバイモードに入ります。**(→P.18)**

リモコンに関して

リモコンが働かない

- 電池が消耗していませんか？ **(→P.5)**
- リモコンと本体の間が離れすぎていませんか？また、リモコンと本体の間に障害物がありませんか？ **(→P.4)**
- 本体のリモコン受光部に強い光（インバータ蛍光灯や直射日光）が当たっていませんか？ **(→P.4)**
- 本体を色付きのガラス扉が付いたラックやキャビネットに設置していると、扉が閉じているとリモコンが正常に機能しないことがあります。

音に関して

音が出ない

- 音量が小さすぎませんか？
- 入力ソースが正しく選択されているか確認してください。**(→P.18)**
- 「MUTING」表示が点滅している場合は、ミューティング機能が働いていますので、リモコンの[消音]ボタンを押して解除してください。**(→P.18)**
- ヘッドホンを接続しているとスピーカーから音は出ません。ヘッドホンをはずしてください。 **(→P.18)**
- LINE INに接続した外部機器の音が出ない場合は、接続を確認してください。**(→P.15～17)**
- LINE INに接続した外部機器の音が出ない場合は、外部機器の音声出力レベル（音量）が低すぎないか確認してください。

音が良くない / 雑音が入る

- スピーカーの（+）（−）、左右（LR）が正しく接続されているか確認してください。
- ピンコードのプラグは奥までしっかり差し込んでください。
- テレビなど強い磁気を帯びたものの影響を受けることがあります。テレビと本機を離してください。
- 携帯電話の通話中など本機の近くに強い電波を発生させる機器があると、ノイズが発生する場合があります。
- 本機は回転機器ですので、静かな環境では再生中や選曲中にディスクを読み取る音が聞こえることがあります。

振動で音が途切れる

- 本機は据え置きタイプで設計されていますので、できるだけ振動の少ない設置場所でご使用ください。
- スピーカーに付属のスペーサーは貼り付けられていますか？ **(→P.5)**

ヘッドホンから音が出ない / ノイズが出る

- ヘッドホンプラグやヘッドホン端子を清掃してください。清掃方法は、ヘッドホンの取扱説明書を参照してください。また、ヘッドホンケーブルが断線していないか確認してください。

音質に関して

- 電源投入後10～30分以上経過した方が音質は安定します。
- オーディオ用ピンコードはスピーカーコードと一緒に束ねると音質が低下しますのでご注意ください。

CD に関して

ディスクが入っているのに再生しない

- ディスクの裏表が正しくセットされているか確認してください。
- ディスクがひどく汚れていたり損傷していないか確認してください。(→P.11)
- 結露していると思われる場合は電源コードを抜き、2～3時間以上室温で放置してください。(→P.11)
- CD-R/RWディスクによっては再生できない場合があります。(→P.10)

再生が始まるまでに時間がかかる

- 曲数の多いディスクの場合、読み込みに時間がかかることがあります。

音が飛ぶ

- 本機に振動が加わっていると音飛びすることがあります。振動の少ない場所に設置してください。
- ディスクに大きな傷や汚れがありませんか？汚れはふき取ってください。(→P.11)

MP3 ディスクが再生できない

- ISO 9660 レベル1/レベル2またはJolietファイルシステムに対応したディスクを使用してください。
- 本機が対応しているMP3フォーマットか確認してください。(→P.10)
- ディスクはクローズ（ファイナライズ）してください。
- ファイル名の後に「.mp3」、または「.MP3」という拡張子が付いていますか？

複製制限機能（コピーコントロール機能）のついた音楽用CDの再生

再生時に雑音が入ったり、音飛びする / ディスクを認識せず「CD No Disc」の表示が出る /1 曲目を再生しない / 頭出しに通常よりも時間がかかる / 曲の途中から再生する / 再生できない箇所がある / 再生の途中で停止する / 誤表示する

- 再生しているディスクは複製制限機能（コピーコントロール機能）のついた音楽用CDです。コピーコントロール機能のついた音楽用CDの中には、CD規格に合致していないものがあります。それらは、特殊ディスクのため、本機で正常に再生できない場合があります。

iPod/iPhone/iPadに関して

音が出ない

- 入力表示が“iPod”、“iPhone”または“iPad”になっているか確認してください。もしNo USBになっている場合は、一度iPod/iPhone/iPadを外して差し直してください。
- 本機にiPod/iPhone/iPadがしっかり接続されているか確認してください。(→P.21)
- 本機の電源が入っているか、入力が「USB(USB/iPod)」になっているか、音量が小さくなっていないか、確認してください。(→P.21)
- お使いのiPod/iPhone/iPadが本機に対応しているか確認してください。(→P.21)

操作できない

- 本機にiPod/iPhone/iPadがしっかり接続されているか確認してください。(→P.21)
- iPod/iPhone/iPadを本機に接続してすぐは操作できない場合があります。しばらく待って操作し直してみてください。
- iPod/iPhone/iPadの機種やソフトウェアのバージョン、あるいは再生するコンテンツによっては、一部の機能が動作しないことがあります。
- 「No USB」と表示される場合は、一旦iPod/iPhone/iPadをはずし、再度接続し直してください。

充電できない

- 入力表示が“iPod”、“iPhone”または“iPad”になっているか確認してください。もしNo USBになっている場合は、一度iPod/iPhone/iPadを外して差し直してください。
- iPod/iPhone/iPadに付属のUSBケーブルで接続してください。また、ケーブルが破損していないか確認してください。
- バッテリーが消耗しきって電源がOnしないiPod/iPhone/iPadをStandbyモードのレシーバーに接続しても「Charging」メッセージは表示されません。しかし、充電は実行されますので、しばらくしてiPod/iPhone/iPadが作動できるまで充電されれば、「Charging」は表示されます。

Bluetoothに関して

Bluetooth のペアリングができない

- 他にもBluetooth対応機器がある場合は、それらの電源を切ってペアリングをやり直してください。
- Bluetooth対応機器側で「Onkyo CR-U5」の登録を削除した後、改めてペアリングしてください。

NFC をタッチしても Bluetooth のペアリング / 接続ができない

- スマートフォンやタブレット側でNFC機能が有効になっているか確認してください。
- NFCをタッチする位置がずれていないか確認してください。

Bluetooth の音が途切れる

- 無線LANの機器や電子レンジなどが近くにありませんか。なるべく本機をそれらから離してください。

- Bluetooth対応機器と本機が離れすぎていませんか。また、壁などで遮られていませんか。Blutooth対応機器と本機を近づけてご使用ください。

Bluetooth の音が映像より遅れる

- Bluetooth伝送の特性上、多少の信号遅延があります。そのためBluetooth対応機器上の再生映像に対し、本機の音声出力の遅れが気になる場合があります。

USBメモリーに関して

音楽ファイルが読み込めない

- 本機はUSBメモリーのみに対応しています。しかし、すべてのUSBメモリーの動作を完全に保証するものではありません。(→P.10)
- USBメモリーがFAT16、FAT32でフォーマットされているか確認してください。(→P.10)
- USBハブには対応していません。USBメモリーは直接USB端子に接続してください。
- 本機では、MP3ファイル以外は再生できません。
- 「No USB」と表示される場合は、一旦USBメモリーをはずし、再度接続し直してください。

MP3 ファイルが再生できない

- ファイル名の後に「.mp3」、または「.MP3」という拡張子が付いていますか？
- 本機が対応しているMP3フォーマットか確認してください。(→P.10)
- 著作権保護されたMP3ファイルは再生できません。

FM放送に関して

放送に雑音が入る /FM ステレオ放送のとき、サーというノイズが多い / オートプリセットで放送局が呼び出せない（FM のみ）/FM 放送で「FM ST」表示が完全に点灯しない

- アンテナの接続をもう一度確認してください。(→P.16)
- アンテナの位置を変えてみてください。(→P.16)
- テレビやコンピューターから離してください。
- 近くに自動車が走っていたり飛行機が飛んでいると雑音が入ることがあります。
- 鉄筋の建物の中などは電波が遮断されるため受信しにくくなります。アンテナを窓際に設置してください。
- FMモードをモノラルに切り換えてみてください。(→P.24)
- それでも受信状態がよくないときは、市販の室内アンテナまたは屋外アンテナの設置をおすすめします。屋外アンテナの設置については、販売店にご相談ください。(→P.16)

周波数を調整できない

- リモコンのみの操作になります。リモコンの[◄ チューニング]/[チューニング ►]ボタンを押して調整してください。(→P.24)

外部機器との接続に関して

レコードプレーヤーの音が小さい

- レコードプレーヤーがフォノイコライザー内蔵か、お確かめください。内蔵していないレコードプレーヤーの場合は別途フォノイコライザーが必要です。

タイマーに関して

タイマー再生しない

- 時計は正しく設定されていますか？ (→P.27)
- 開始時刻に電源が入っているとタイマーは動作しません。タイマー開始時はスタンバイ状態にしてください。(→P.28)
- 停電になり、時計が停止するとタイマーも取り消されます。あらためて時計を設定し直し、タイマーを「On」状態に設定してください。

時計に関して

[タイマー] ボタンを押して、「－－：－－」と表示される

- 停電になり、時計が停止しました。あらためて時計を設定し直してください。(→P.27)

その他

待機時電力について

- iPod/iPhone/iPadを充電している場合、スタンバイ状態時の消費電力が増加します。

製品の故障により正常に録音できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については保証対象になりません。大切な録音をするときには、あらかじめ正しく録音できることを確認の上、録音を行ってください。

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音やノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて約5分以上待ってからあらためて電源プラグを差し込んでください。
それでも直らない場合は、30ページの「本機のリセットについて」を参照してリセットしてください。

主な仕様

CDレシーバー部（CR-U5）

■総合

電源・電圧	AC 100V、50/60Hz
消費電力	32W
無音時消費電力	5W（iPod/iPhone/iPad 充電時を除く）
待機時電力	0.3W（iPod/iPhone/iPad 充電時を除く）
最大外形寸法	215（幅）× 99（高さ）× 273（奥行）mm
質量	1.9kg
音声入力	アナログ：LINE
音声出力	スピーカー出力　2(左 / 右) ヘッドホン　1

■アンプ部

定格出力	2ch × 15W 6Ω (THD+N 1% 以下、2ch 駆動時 (同時駆動)、JEITA)
実用最大出力	2ch × 20W（6Ω、1kHz、2ch 駆動時（同時駆動）、JEITA）
総合歪率	0.1%（1kHz、1W 出力時）
入力感度 / インピーダンス	1000mV/10kΩ（LINE）
周波数特性	30Hz ～ 22kHz/ + 3dB、− 3dB（LINE）
トーンコントロール最大変化量	± 7dB、80Hz（BASS） ± 7dB、10kHz（TREBLE）
SN 比	77dB（LINE、IHF-A）
スピーカー適応インピーダンス	6Ω ～ 16Ω

■FMチューナー部

受信範囲	FM：76.0MHz ～ 95.0MHz
プリセットチャンネル数	30

■CD部

読み取り方式	非接触光学式
周波数特性	30Hz ～ 20kHz
全高調波歪率	0.1%
ワウ・フラッター	測定限界以下
再生可能メディア	CD、CD-R/CD-RW（音楽 CD、MP3）

■USB

再生可能メディア	USB メモリー（MP3） iPod/iPhone/iPad

■Bluetooth部

通信システム	Bluetooth バージョン 4.0
最大通信距離（見通し距離）	約 10m（＊）
周波数帯域	2.4 GHz 帯域（2.4000 GHz − 2.4835 GHz）
変調方式	FHSS（周波数ホッピングスペクトラム拡散）
対応プロファイル	A2DP 1.2（Advanced Audio Distribution Profile） AVRCP 1.5（Audio Video Remote Control Profile）
対応コーデック	SBC
対応コンテンツ保護	SCMS-T
伝送範囲（A2DP）	20 Hz − 20,000 Hz（サンプリング周波数 44.1 kHz）

＊実際の通信範囲は機器間の障害物、電子レンジの電磁波、静電気、コードレスフォン、受信感度、アンテナの性能、操作システム、アプリケーションソフトウェアなどの影響により異なります。

スピーカー部

■D-T25

形式 2ウェイ・バスレフ型

定格インピーダンス
6Ω

最大入力 40W

定格感度レベル 82dB/W/m

定格周波数範囲 80Hz～20kHz

クロスオーバー周波数
10.4kHz

キャビネット内容積
3.4リットル

外形寸法（幅×高さ×奥行）
130 × 210 × 176mm
（サランネット、ターミナル突起部含む）

質量 1.7kg

使用スピーカー ウーファー：
10cmコーンウーファー× 1個
ツィーター：
2cmバランスドームツィーター× 1個

ターミナル プッシュ式スピーカーターミナル

防磁設計 ○

備考
- グリルネット着脱不可
- 2個1梱包（L/R区別なし）

■D-UD5

形式 2ウェイ・バスレフ型

定格インピーダンス
6Ω

最大入力 40W

定格感度レベル 82dB/W/m

定格周波数範囲 80Hz～20kHz

クロスオーバー周波数
10.4kHz

キャビネット内容積
2.7リットル

外形寸法（幅×高さ×奥行）
130 × 200 × 172.5mm
（サランネット、ターミナル突起部含む）

質量 1.9kg

使用スピーカー ウーファー：
10cmコーンウーファー× 1個
ツィーター：
2cmバランスドームツィーター× 1個

ターミナル プッシュ式スピーカーターミナル

防磁設計 ○

備考
- グリルネット着脱不可
- 2個1梱包（L/R区別なし）

※　仕様および外観は、性能向上のため予告なく変更することがあります。

ご相談窓口・修理窓口のご案内

販売店の「長期保証」制度にご加入の場合は

保証の手続き上、お買い上げになった販売店様での受付けが必要となります。長期保証期間内の製品は、店頭への修理品持込みをお願いいたします。

■ お電話による故障判定と、修理受付け

※意外な操作ミスが故障と思われています。お問い合わせの前に取扱説明書をもう一度お調べください。
また弊社ホームページサポート情報にもトラブル解決のFAQを掲載していますので、ご参考ください。

▶ オンキヨーオーディオコールセンター　050-3161-9555

（受付時間:10:00～18:00 土·日·祝日および弊社で定める休業日を除きます）

※製品操作のご案内、リモコン等付属パーツのご要望、その他ご不明な点についても受け付けております。
※スムーズな対応のため、お問い合わせの前に以下の情報をお調べください。
・製品の型番·接続している他機器·できるだけ詳しい不具合状況
・ご購入店名·ご購入年月日

■ メールによる修理お申込み

▶ http://www.jp.onkyo.com/support/servicebase.htm
からお申込みいただけます。

■ お近くの修理拠点へ「持込み」をご希望の場合は

下記のURLにて全国の修理拠点のご案内がございます。
▶ http://www.jp.onkyo.com/support/servicebase.htm

保証書について
保証書の記載事項をご確認ください。また、所定事項をご記入いただき大切に保管してください。保証期間内に万一、故障や異常が生じたときは、保証書をご用意のうえ、上記相談窓口にご相談ください。

保証期間終了後の修理について
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。

補修用性能部品の保有期間について
本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後、最大8年間保有しています。保有期間経過後でも故障箇所によっては、修理可能の場合がありますのでご相談ください。

ONKYO

オンキヨー株式会社
〒541-0041　大阪市中央区北浜二丁目２番22号 北浜中央ビル

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：
オンキヨーオーディオコールセンター
☎ 050-3161-9555（受付時間　10：00～18：00）
（土･日･祝日･弊社の定める休業日を除きます）
サービスとサポートのご案内：http://www.jp.onkyo.com/support/

I1410-2

SN 29401823A

(C) Copyright 2014 Onkyo Corporation Japan. All rights reserved.

* 2 9 4 0 1 8 2 3 A *